

10.3.7 三次元表示用ボーリング柱状図作成処理



図-10.3.37 三次元表示用ボーリング柱状図作成処理ページ

(1) 前提条件

本処理を行う前に以下の条件をクリアする必要がある。

- ① 簡易版ボーリングモデルの属性データ仕様に則り、ボーリング交換用データ(XML)の「<地層岩体区分>」タグに所定の地層情報を登録しておく必要がある。
- ② 各「<地層岩体区分>」タグに地層情報を登録する際に使用した「地層岩体区分凡例」を一覧表形式にした「地層データ(CSV)」を用意する必要がある。

この条件は「ボーリング交換用データ ⇒ OCU Geomodeler 入力データ変換処理」と同じであるため、同処理を実行した後であれば条件を満たしている。

(2) 主な機能

- ・ VRMLやWeb-GLを利用してボーリングモデルを三次元で表現する場合、前者では円筒形状に柱状図イメージ(テクスチャ)を貼り付ける方法が、後者では16角柱の形状に柱状図イメージ(テクスチャ)を貼り付ける方法が採用される。
- ・ 本処理ではこれらに使用するボーリングモデル(イメージ)を作成する。

(3) 主な操作方法

- ・ [地層データの選択]表示右の[参照]ボタンをクリックして地層データを選択し、[読み込み]ボタンでシステムに入力する(図-10.3.37 参照)。
- ・ 図-10.3.38 の赤枠内のように、地層区分と平面直角座標系番号が表示されれば、データは正常に読み込まれている。



図-10.3.38 地層データファイルの読み込みと表示

- ・ボーリングモデル(イメージ)を作成するために、図-10.3.39の赤枠内の[参照]ボタンをクリックしてボーリングデータファイルを選択する。
- ・[イメージ作成]ボタンをクリックすると、図-10.3.39(下)のようにボーリングモデル(イメージ)が表示される。
- ・ボーリングモデル(イメージ)は2個描画されているが、左はWindowsで描画された結果、右は「png」に変換されたイメージデータである。
- ・ファイルに保存する場合は、右のイメージ上にカーソルを合わせ、右クリックして「名前を付けて保存」するとよい。

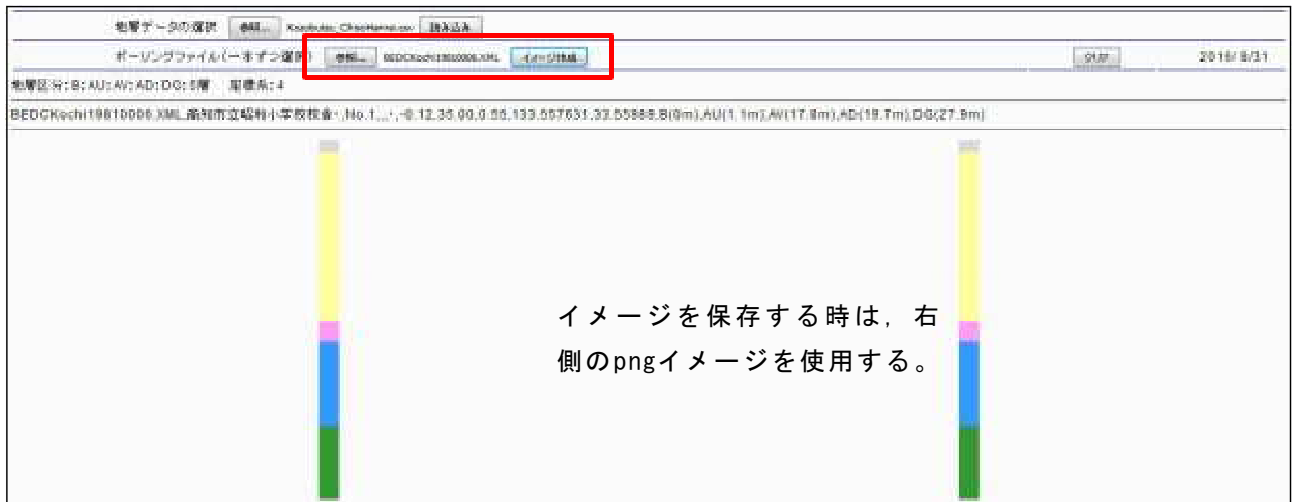


図-10.3.39 三次元表示用ボーリング柱状図作成処理ページ

(4) イメージの編集作業

- ・本処理で作成されるボーリングモデル(イメージ)は、使用するコンピュータの仮想キャンパスの関係で深度が120mまで作成されるようになっている。なお、地層の無い部分は透明である。
- ・そのまま使用する場合には、実際の掘削深度では無く「深度が120m」として仮想の円柱を描画すること。
- ・実際の深度にするためには、図-10.3.40のように、イメージ編集ソフトを使用して透明の部分削除するとよい。

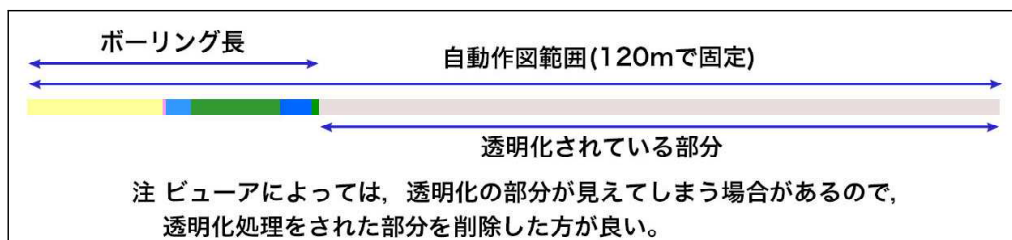


図-10.3.40 透明の部分削除する理由(図-8.2.3 再掲)